インターネットと連動した 【滋賀生活情報紙】

この情報紙は「滋賀ガイド」と提携しています www.gaido.jp

vol.577·8月27日号

毎週木曜発行 4面に プレゼント情報!

- ●Oh!Me編集室/株式会社ヤマプラ:近江八幡市桜宮町294 TEL0748-34-8872 FAX0748-34-8927 ●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603 発行部数:100.000部





随筆家・白洲正子が紀行エッセーで その魅力を紹介する「かくれ里」。い かいゆり子さんは県内にあるかくれ 里を訪ね歩き、近江に残る歴史や文 化の素晴らしさを発信し続けている。

人生変えた本との出合い

明治、大正、昭和、平成の四つの時代 を生き抜き、日本の美をたたえ続けた 白洲正子。彼女が吉野、葛城、伊賀、 越前、滋賀のかくれ里を訪ね、その魅 力を余すところなく著した紀行文が「か くれ里」だ。いかいさんは国語の教師 だった24年前、参加した研究会でこの本 に出合った。

かくれ里とは人里離れた山奥の里のこ とだけをいうのではなく、町中でも街道 から少し離れた場所にあって寂れてし

歴史にはぐくまれ 云えたい近江のかくれ

まった古い寺社など穏やかで美 しい風土に包まれてひっそりと営 みを重ねてきた人里のこと。そ こには日本の古い歴史や信仰、 伝承や習俗が伝わり、地元の人 たちが代々守り続けてきた美術 品が残されている。

いかいさんは読み込むほどにか くれ里のとりこになった。

自然と歴史が豊かな滋賀は数 多くのかくれ里に恵まれていな がら、ほとんど知られていない。 この魅力を人々に広めることに

身を捧げたいと思うようになった。

6年かけてかくれ里歩く

子育でも落ち着き、教師生活30年を迎 えた53歳のときに思いきって退職。白 洲正子が訪れた県内のかくれ里を6年

間かけて歩いて回り、紹介する記事を県

文化振興事業団が発行する季刊誌「湖

国と文化」に「滋賀のかくれ里」と題して

特に奥琵琶湖の菅浦(長浜市)は、かく

連載した。

だった。須賀神社は清浄を保つために 裸足で参拝するしきたりで、いかいさん も裸足で体験してみた。時雨の降る寒 い日、空気がその場所だけ違うような気 がした。足から「気」のようなものが上 がってきてあとでじわじわと温かくなっ てきたという。

金勝山中にある猶坂磨崖仏(栗東市)は 車が入れるところからさらに歩いて50分

かかるが、6 紅もの高さの岩に何 体もの仏像が彫られ、迫力ある美 しさに驚いた。友人や講座のメ ンバーを連れて何度も訪れた。

かくれ里を支え続けている人にも たくさん出会った。中には夫を亡 くして2人の子どもを抱えながら、 檀家の人とともに全焼した寺を再 興して守っている女性もいた。

2009年からシニアの学び場であ

る県レイカディア大 学米原校の講師を 務める。滋賀に関 する本を600冊以上 読みあさり、「おくの ほそ道」の講座を開

くために松尾芭蕉についても調べ、2 年かけて「おくのほそ道」を旅した。芭 蕉は近江を8回も訪れ102句詠んでい て、県内に61基の句碑がある。 芭蕉が 「鳰の浮巣」を江戸で詠んでいたのを 知って驚いた。

魅力を発信

-連の取材の成果を元 に4年前に「近江のかく

れ里」、今年4月に「近江の芭蕉」を出 版。地域の公民館などで講座や講演会 を開催して「近江の良さ」の語り部として 活躍している。

「分かりやすい句碑の説明板を設置する 運動もしています。今後は近江の能、 文学碑、万葉集の碑などの本も書いて みたいと思っています」(取材・鋒山)

詳しくは www.gaido.jp/suteki





- 10/6 (火) 石部まちづくりセンター
- ●10/21(水)守山市立図書館

いかいゆり子

- ●湖南市岡出2-3-21
- TEL.FAX:0748-77-4481

サンライズ出版「近江のかくれ里」1,728円 「近江の芭蕉」1,944円

★探訪に便利な地図や交通案内付き





